

同志社幼稚園へ贈られた「青い目の人形」



1988年に同志社幼稚園へ贈られたベッツィ

昭和の初期、日米の親善交流のために「青い目の人形」が米国から日本へ贈られたことはよく知られている。贈った人物は、1906年から同志社神学校（のちに大学神学部）で教鞭を取っていた米国人宣教師シドニー・ギューリック（Sidney Gulick, 1860-1945）である。ギューリックは1913年に健康上の理由で大学を退職し帰国するが、帰国した米国で激しい排日運動を目にし、米国キリスト教教会連盟幹事として国際親善や平和問題に熱心に取り組むようになる。しかし取り組みが結実することはない。1924年の米国議会での排日移民法成立はその後の日米関係悪化の要因ともなる。次第にギューリックは平和の心は大人の様に好戦的ではない子供たちに伝えることが重要だと考えるようになり、1926年に世界児童親善委員会を設置し日本へ人形を贈ることを計画した。呼びかけにより全米から12,700体余りの人形が集められ、1926年秋に日本へ送り出された（「青い目の人形」とは言われるものの、人形全てが青い目だったわけではない）。面白



ベッツイのパスポート

いことに、人形たちは「切符」や「パスポート」を持っていた。切符は日本までの旅費という設定であり、パスポートには、この人形はアメリカの善良な市民で日本の法律を順守する、と書かれていた。日本と米国の相互理解を願うギュリックらの細やかな心配りが感じられよう。日本からも1927年秋に58体の答礼人形が米国へ贈られた。

さて、今回紹介する写真の人形はこのとき贈られたものではない。シドニー・ギュリックの孫にあたるギュリック3世が祖父の遺志を継ぎ1987年か

ら日本の幼稚園や小学校、YMCAなどへ再び「青い目の人形」を贈呈する活動を進めたが、その際、同志社幼稚園へ贈られ、2023年4月に同志社幼稚園から同志社社史資料センターへ寄贈されたものである。

白とえんじの二色のワンピースを着た背丈40cmほどの人形の名前はベッツイ(Bessie)である。ベッツイは1988年春に雛人形が飾られた同志社幼稚園の遊戲室で、ギュリック3世とその家族より園児たちへ手渡しで贈られた。戦前期の「青い目の人形」と同様にベッツイもパスポートを持っており、誕生日や出生地、パスポート番号などが記され、保護者欄にはギュリック3世のサインも見られる。同志社幼稚園からは返礼品として市松人形が贈られた。

〈参考文献〉

(同志社社史資料センター)

・「私の祖父 シドニー・ギュリックと青い目の人形交流」(1986年5月31日シドニー・ギュリック三世講演記録 於横浜人形の家劇場)

・茂義樹「シドニー・ギュリックについて―排日法案をめぐって―」(『キリスト教社会問題研究』34号、1986年)

